Hello, from Around the World

ALT通信

白河で活躍するALT（外国語指導助手）を紹介！

コートニー・ベン先生
（アメリカメリーランド州）

問本庁舎学校教育課　内2365

楽しめる授業を！

みなさんこんにちは。前回に引き続きコートニーです。

みなさん、お正月はどのように過ごしましたか。メリーランドのお正月は、ハムや黒目豆を食べて、家族でテレビを見ながら、ゆっくりと過ごします。アメリカでは新年に黒目豆を食べると縁起が良いといわれています。みなさんも、ぜひ食べてみてください。

今回は、学校での授業の様子を紹介します。初めの頃は、どんなふうに授業を進めたらいいのか不安でしたが、子どもたちが積極的に話しかけてくれるので、今ではとても楽しく過ごしています。

子どもたちが楽しみながら学習できるように、授業では英語カルタなどのゲームを取り入れています。ゲームを通して、子どもたちにアメリカの文化や習慣などを教えていきたいです。

▲白五小での授業の様子

英語で一言！
Don't aim to be perfect.
Aim to be happy.
（完璧よりも、幸せを目指そう）

シリーズで学ぶ

白河歴史人物伝

Vol.10

老中として幕府終焉を見つめた定信の孫

板倉勝静

（1823～1889）

板倉勝静肖像写真
下段写真とも『國事殉掌報効志士人名録第壱輯』（史談会編、明治44年）より

先月号の阿部正外が老中を務めた前後に、二度老中となった板倉勝静という人物がいます。松平定信の孫にあたり、白河で生まれました。

《生い立ちと養子入り》

勝静は、文政6年正月18日、藩主松平定永の子として生まれました。生後間もない3月下旬、松平家が桑名転封となり、江戸に移って祖父定信と対面しました。

20歳の時、備中松山藩（現岡山県高梁市）の譜代大名板倉家の養子となりました。老中になる志があり、その可能性を求めたためといいます。

嘉永2年（1849）に藩主となり、陽明学者の山田方谷を抜擢し、藩政改革を成し遂げました。

《二度の老中と幕府の終焉》

その後、幕府の役職を務め、文久2年（1862）に老中となりますが、他の老中らと意見が合わず、元治元年（1864）6月に辞職します。

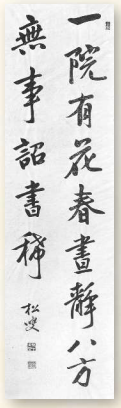
しかし14代将軍家茂の要請で慶応元年（1865）10月に再び老中となり、家茂死後は徳川慶喜を補佐し、将軍就任や同3年の大政奉還に奔走しました。

同4年正月、京都で戊辰戦争が始まります。幕府軍は敗れ、勝静は慶喜らと大坂から江戸に撤退して老中を辞職し、日光に謹慎しました。

日光では進軍した新政府軍に捕まりますが、旧幕府軍に救出され、共に会津・仙台を経て五稜郭に行っています。

しかし、家臣の説得で自首して謹慎処分を受け、許された後は上野東照宮の神職を務め、明治22年、67歳で亡くなりました。

定信が立て直そうとした幕府、その最期を孫が見届けたのは、数奇な巡り合わせといえるかもしれません。



板倉勝静晩年の書

問文化財課☎㉗2310